



#3221

九重町 防災マッパ



Kokonoe Town

九重町

地震や風水害などの自然災害の発生を防ぐことはできませんが、災害による被害は日頃からの備えによって減らすことができます。そのためには、行政などによる防災対策である「公助」ばかりでなく、自分の命は自分で守る「自助」と地域全体で助け合う「共助」が欠かせません。

いざという時に備えて、非常持出品の準備や家屋の耐震改修、家具の固定など、まずは身の回りの安全対策から始めましょう。災害が発生した場合を想定して、どこに避難すればよいか、家族とはどう連絡を取り合うかなどについて事前に家族で話し合っておくことも大切です。地域の自主防災組織の活動にも積極的に参加し、防災訓練などを通じて災害時の協力体制を確認しましょう。

本冊子は、地震、風水害、土砂災害などに関する基本的な知識や災害発生時の対処法をまとめています。また、土砂災害については、町内で想定されている危険箇所を確認できる防災マップも掲載しています。本冊子をよくお読みいただき、また常に手近に備えていただき、災害時の被害軽減に役立ててください。

目次

● はじめに 防災マップの使い方・見方	1	● 避難時の注意点	11
● 指定避難所・福祉避難所マップ	2	● 防災対策&チェック	12
● 指定避難所・福祉避難所一覧	4	● 非常時持ち出し品の準備&チェック	14
● 避難情報 警戒レベルの確認	5	● 特別警報をご存知ですか？	16
● 洪水	6	● 県民安心・安全メール	17
● 風水害・台風	7	● 自主防災組織について 災害に強い地域をつくりませんか？	18
● 地震	8	● 家庭での備えされてますか？	19
● 噴火警戒レベル	9	● 家庭のオリジナルマップを作ろう！	20
● 火災	10	● 防災に関する知識	裏表紙

九重町防災マップ

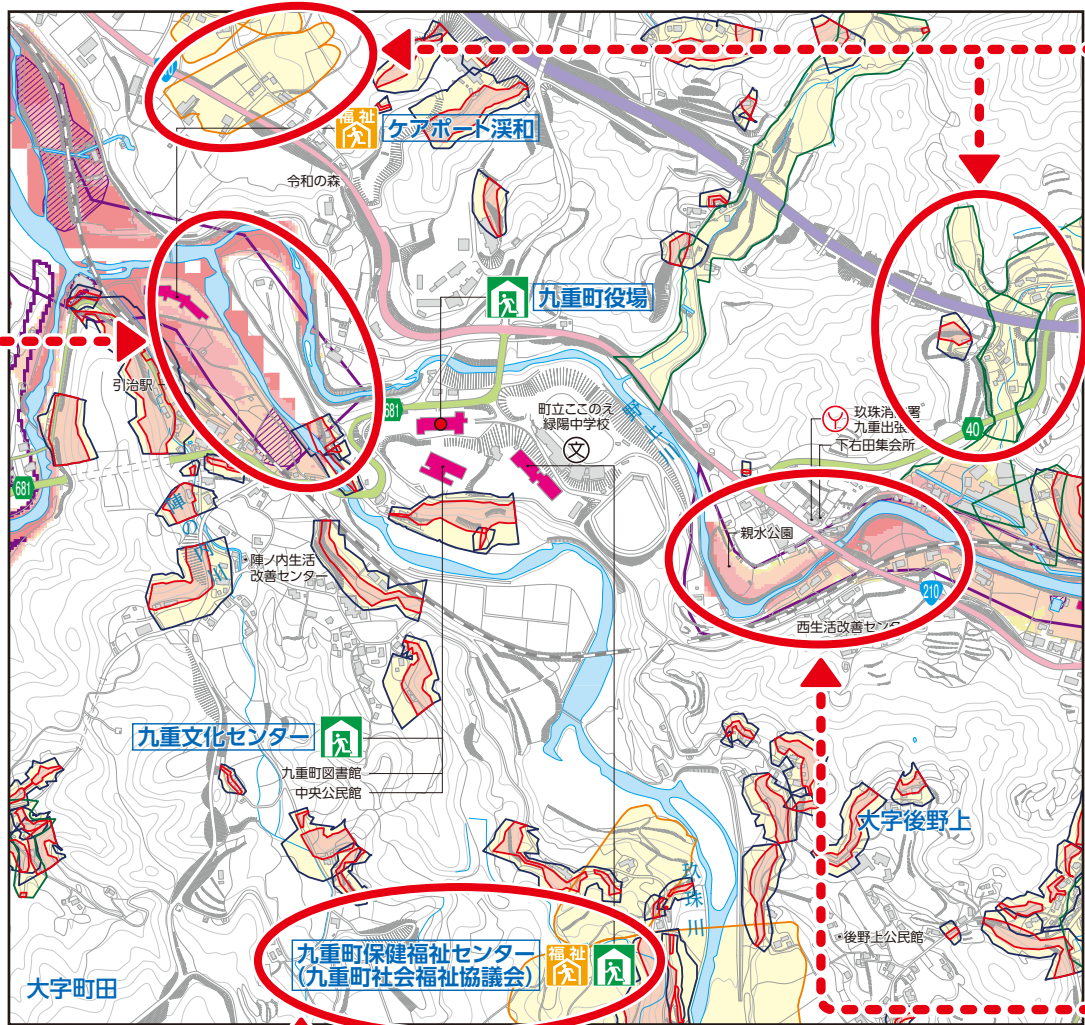
発行・お問い合わせ先: 九重町 危機管理情報推進課
制作・著作: (株)ゼンリン大分営業所

令和3年3月発行
TEL0973-76-3801

「この地図は、大分県知事の承認を得て、5,000分の1森林基本図を使用し、調製したものである。(承認番号24-41号 平成24年8月3日)」
「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 293-261号」「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 294-120号」
「JIS Z 8210避難所(建物)」

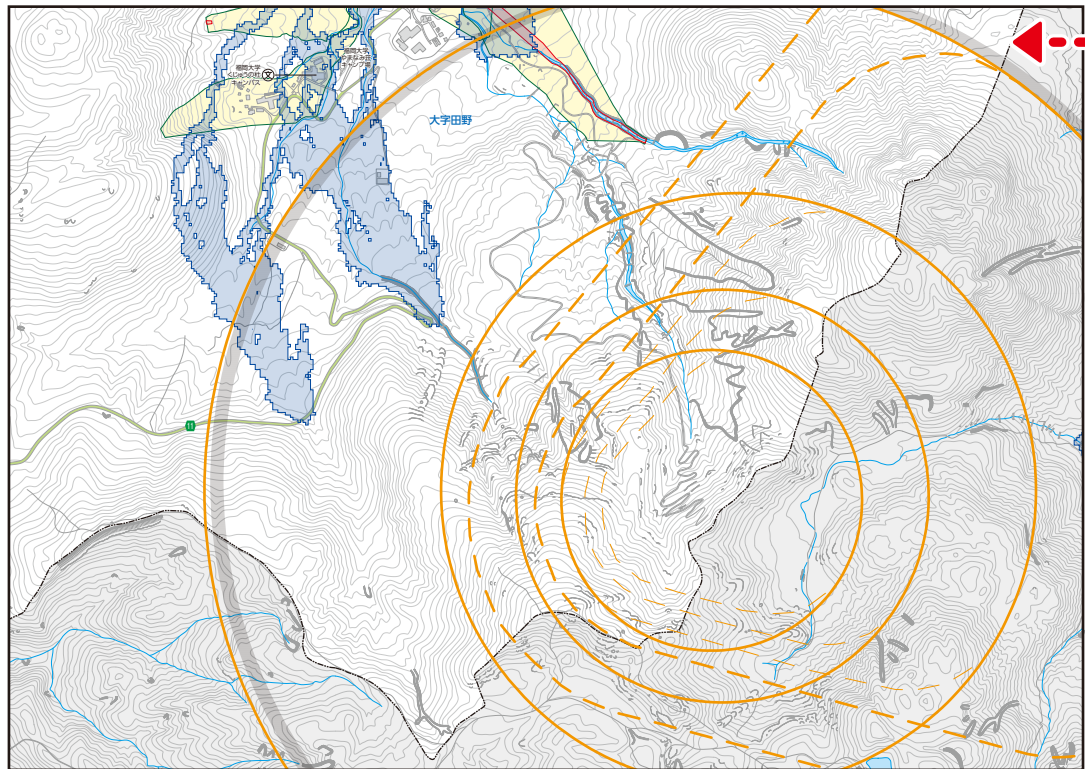
(禁無断複製)©2021 ZENRIN CO., LTD.

はじめに 防災マップの使い方・見方



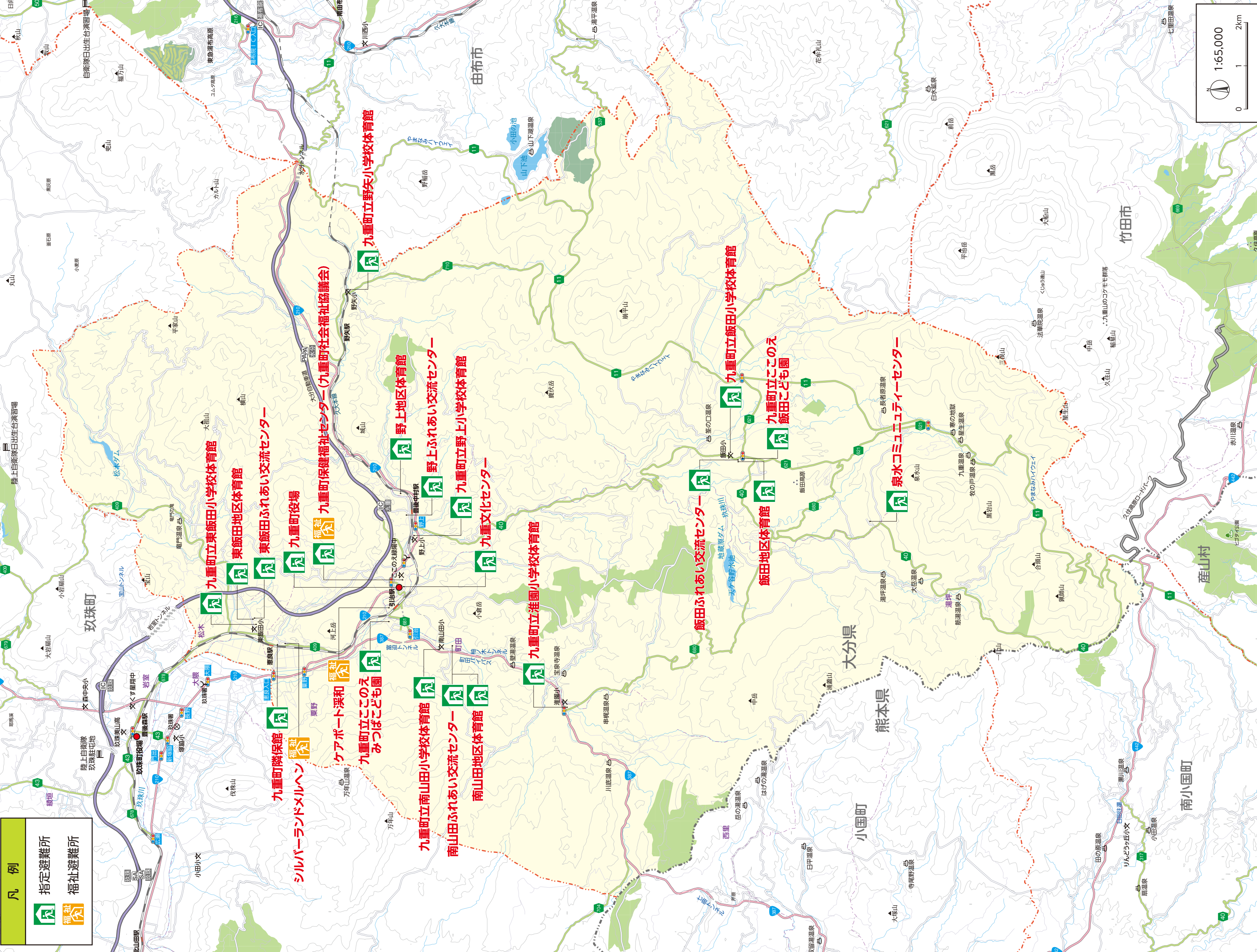
土砂災害警戒区域	
急傾斜地	警戒区域 特別警戒区域 傾斜度30°以上で高さ5m以上の急傾斜地を抽出しています。
土石流	警戒区域 特別警戒区域 渓床勾配が3°以上(火山砂防地域では2°)の渓流を抽出しています。
地すべり	警戒区域 地形図や過去の災害履歴などから判断して地すべりが発生する可能性があり、人家や河川などに被害を生ずるおそれのあるところを抽出しています。
浸水した場合に想定される水深	
	10m~20m未満の区域 5m~10m未満の区域 3m~5m未満の区域 0.5m~3m未満の区域 0.5m未満の区域

避難所	
指定避難所	福祉避難所
早期の立退き避難が必要な区域:家屋倒壊等氾濫想定区域	
洪水氾濫	木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。
河岸侵食	家屋が倒壊するような河岸侵食の発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要。



火山災害警戒区域	
	硫黄降灰予測 硫黄降灰予測(外周) 硫黄火山灰
	硫黄噴石
	土石流

指定避難所・福祉避難所マップ



指定避難所

災害による家屋の倒壊などで、**居住場所を確保できなかった人たちの収容保護を目的として**、物資の運搬・集積・炊事・宿泊などの利便性を考慮したうえで、学校・公民館・公共建築物などを指定しています。

項番	名称	TEL	所在地
1	九重町立東飯田小学校体育館	0973-76-2304	九重町大字恵良938
2	九重町立野上小学校体育館	0973-77-6804	九重町大字野上17番地の1
3	九重町立野矢小学校体育館	0973-77-6885	九重町大字野上3460
4	九重町立飯田小学校体育館	0973-79-2253	九重町大字田野1617
5	九重町立南山田小学校体育館	0973-78-8803	九重町大字町田609
6	九重町立淮園小学校体育館	0973-78-8812	九重町大字菅原1274
7	東飯田地区体育館		九重町大字恵良941
8	野上地区体育館		九重町大字野上1322番地の1
9	飯田地区体育館		九重町大字田野1624番地の26
10	南山田地区体育館		九重町大字引治1230
11	九重町立ここのえみつばこども園	0973-73-2555	九重町大字引治508番地の1
12	九重町立ここのえ飯田こども園	0973-73-3590	九重町大字田野1624番地の9
13	九重町役場	0973-76-2111	九重町大字後野上8番地の1
14	泉水コミュニティーセンター	0973-79-3620	九重町大字田野204番地の1
15	九重文化センター	0973-76-3888	九重町大字後野上17番地の4
16	九重町保健福祉センター	0973-76-3838	九重町大字後野上17番地の1
17	九重町隣保館	0973-76-2468	九重町大字右田3088番地の2
18	東飯田ふれあい交流センター	0973-76-3116	九重町大字恵良941番地
19	野上ふれあい交流センター	0973-77-6810	九重町大字右田740番地の52
20	飯田ふれあい交流センター	0973-79-2251	九重町大字田野1624番地の123
21	南山田ふれあい交流センター	0973-78-8801	九重町大字引治1230番地の1

福祉避難所

福祉避難所は、一般の避難所では避難生活が困難な要配慮者のため、バリアフリー機能（洋式トイレ、スロープ等）を備え、福祉的サービス等が受けられるよう、あらかじめ町により指定された社会福祉施設等です。

項番	名称	TEL	所在地
1	シルバーランドメルヘン	0973-76-2100	九重町大字右田3156番地の7
2	九重町保健福祉センター(九重町社会福祉協議会)	0973-77-2500	九重町大字後野上17番地の1
3	ケアポート溪和	0973-78-8000	九重町大字町田5481番地の3

集中豪雨や台風などによって、水害や土砂災害などの災害が発生するおそれがあるとき、どの情報をもとに、どのタイミングで避難をするべきか?それぞれの状況に応じて避難できるよう、災害発生 の危険度と住民の方々が取るべき行動を5段階の「警戒レベル」を用いてお伝えします。

警戒レベル	状 況	住民が取るべき行動	行動を促す情報	参考(現行)
5	災害発生 又は切迫	命の危険 直ちに安全確保！	緊急安全確保※1	災害発生情報 (発生を確認した ときに発令)
~~~~~ <警戒レベル4までに必ず避難！> ~~~~~				
4	災害の おそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示(注)	・避難指示(緊急) ・避難勧告
3	災害の おそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難※2	高齢者等避難	避難準備・ 高齢者等避難開始
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認	大雨・洪水・ 高潮注意報(気象庁)	大雨・洪水・高潮 注意報(気象庁)
1	今後気象状況 悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報 (気象庁)	早期注意情報 (気象庁)

※1 市町村が災害の状況を確実に把握できるものではない等の理由から、警戒レベル5は必ず発令されるものではない  
※2 警戒レベル3は、高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり危険を感じたら自主的に避難するタイミングである  
※3 新たな避難情報等は、令和3年出水期(予定)からとする  
(注) 避難指示は、現行の避難勧告のタイミングで発令する

#### 自主避難について

#### 危険を感じたらすぐ避難しましょう

局地的集中豪雨のような、突発的な異常気象の場合には、町からの避難情報が間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ自主的に避難しましょう。

避難に関する2つの情報

災害の危険が迫って居住者の避難が必要になった場合に、避難に関する情報が発令されます。2種類の情報は状況の深刻度に応じて出されるので、各情報に応じた避難行動をとりましょう。

#### 1 高齢者等避難

人的被害の発生する危険性が高まった状況。

- 避難するのに時間がかかる高齢者など災害時要配慮者やその支援者は避難を始めます。
- 通常の避難行動ができる人は、家族との連絡、非常持出品の用意など避難の準備を始めます。

#### 2 避難指示

人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況、あるいはすでに人的被害が発生した状況。

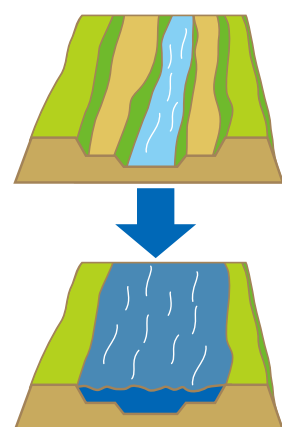
- 避難中の住民は直ちに避難をおこなってください。
- まだ避難していない住民は直ちに避難します。万一避難する余裕がなければ、命を守る最低限の行動を取ります。

強い雨が広範囲に、長時間続くときに、洪水災害が発生する危険性が高まります。  
発生メカニズムを知り、堤防決壊の前兆に注意しましょう！

## 洪水の基礎知識

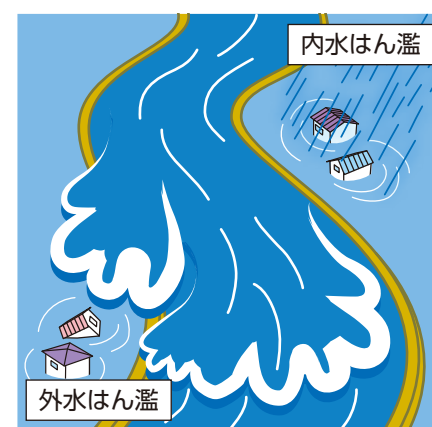
### 洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量がふだんより、いちじるしく増えた状態をいいます。河原へ行くと広い敷地のわりに細い川しか流れていませんがそれがふだんの姿です。  
ところが川幅いっぱいにおしよせると、広い河原も水の下にかくれて見えません。このように異常に水が増えたときを「洪水」といいます。



### はん濫

はん濫とは、雨などによって、街や農地などに水があふれることで、川から水があふれることを「外水はん濫」といいます。  
川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままたまってあふれることを「内水はん濫」といいます。



右記のような前触れに注意して、危険を感じたら速やかに避難しましょう。

- 堤防の川側が崩れ始めたとき
- 水かさが増し、堤防に亀裂が生じたとき
- 堤防の側面から水が漏れ出したとき
- 増水が早く、水が堤防を越えそうとき
- 水が激流となって堤防の土が削り取られたり、護岸が壊れ始めたとき
- 堤防近くの地盤から水が噴き出すとき

## 河川水位及び危険度レベル

以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

レベル	水位	町や住民に求める行動
5	はん濫の発生	・町および住民は、新たにはん濫が及ぶ区域で避難の判断が必要
4 (危険)	はん濫危険水位	・住民の避難完了
3 (警戒)	避難判断水位	・町は避難指示の発令を判断 ・住民は避難を判断 ↓ 避難指示の発令
2 (注意)	はん濫注意水位	・町は高齢者等避難情報発令を判断 ・住民ははん濫に関する情報に注意 ・水防団出動 ↓ 高齢者等避難情報の発令
1	水防団待機水位	・水防団待機

まずは、確実な情報が大事  
その次に迅速な対応



大分県の河川の水位情報がご覧になれます。  
【大分県 雨量・水位観測情報】 <http://river.pref.oita.jp/>

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。  
ふだんから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！  
こんなときのわが家の安全対策

## 大雨注意報・警報・記録的短時間大雨情報の発表基準

### 大雨注意報

大雨による災害が発生するおそれがあると予測される場合。

### 大雨警報

大雨による重大な災害が発生するおそれがあると予測される場合。

### 記録的短時間大雨情報

土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っている場合。

※表面雨量指数基準とは、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数です。

## 雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm 以上～
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

## 風の強さと吹き方

(平均風速:m/秒)

10m/秒以上～15m/秒未満	15m/秒以上～20m/秒未満	20m/秒以上～25m/秒未満	25m/秒以上～
風に向かって歩きにくなり、傘がさせない。	風に向かって歩けなくなり、転倒する人もいる。	しっかりと身体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない状態になり、屋外の行動は危険。樹木が根こそぎ倒れはじめる。

### 台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。  
台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(平均風速:m/秒)

大きさ	風速 15m/秒 以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上～800km未満	強い	33m/秒以上～44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

### 集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域に、突発的に短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。  
発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

つねに気象情報には、注意しておきましょう！

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。



大地震が起きると「振動(揺れ)」「液化化」「土砂災害」「地震災害」「津波」などがほぼ同時に起こり、大きな被害が生じる恐れがあります。周囲の状況判断して、まず自分自身の身の安全を確保し、消防署員及び消防団員、警察官などの指示に従って近所の人と一緒に徒歩(原則)で避難所等安全な場所に避難しましょう。

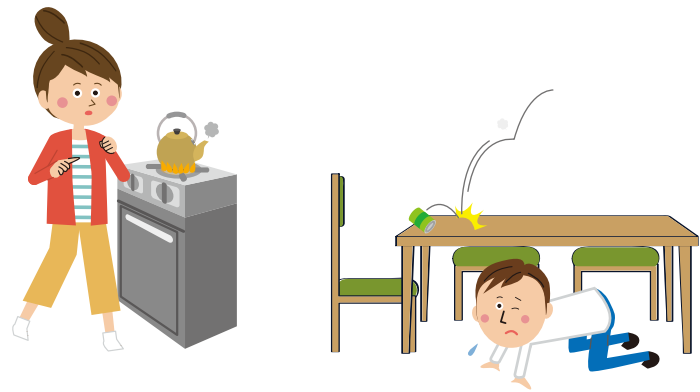
地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 手近な座布団などで頭を保護
- すばやく火の確認 ガスの元栓、コンセント
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する。



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ちていて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないか確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 避難するときは、屋根瓦・ブロック塀・自動販売機等に注意
- 津波などの危険が予想される地域はすぐ避難



3分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に声をかけよう

- 要配慮者の安全確保 隣近所で助け合う
- 行方不明者はいないか ●ケガ人はいないか
- 初期消火 消火器を使う バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく
- 漏電・ガス漏れに注意 ●電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める
- 余震に注意

出火防止 初期消火

5分

ラジオなどで正しい情報を得る

- 大声で知らせる ●救出・救護を求める ●防災機関、自主防災組織の情報を確認
- デマにまどわされない ●避難時に車は極力使用しない ●電話は緊急連絡を優先する

10分

数時間

3日

屋内

にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保しすばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに、行き、コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに行う。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- ガラスの破片などでケガをするため、裸足で歩き回らない。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。
- 柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- 避難にエレベーターは絶対に使用しない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し係員の指示を聞く。
- あわてずに冷静な行動をとる。



屋外

にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から、頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断し、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などに近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両などの通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで、冷静に周囲の状況を確認してカーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要な時はキーをつけたままドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

海岸付近

- 高台へ避難し、津波情報をよく聞く。注意報・警報が解除されるまでは、海岸に近づかない。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って、落ち着いた行動をとる。

火山災害から身を守るために

種別	名称	対象範囲	レベルとキーワード	説明		
				火山活動の状況	住民等の行動	登山者・入山者等への対応
特別警報	噴火警報(居住地域)又は噴火警報	居住地域及びそれより火口側	5 避難		住居地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な住居地域からの避難等が必要(状況に応じて対象地域や方法を判断)。
			4 避難準備		住居地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まってきている)。	警戒が必要な住居地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要(状況に応じて対象地域を判断)。
警報	噴火警報(火口周辺)又は火口周辺警報	近居火口から居住地域まで	3 入山規制		住居地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	通常の生活(今後の火山活動の水位に注意。入山規制)。状況に応じて要配慮者の避難準備等。
		火口周辺	2 火口周辺規制		河港周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	火口周辺への立入規制等(状況に応じて火口周辺の規制範囲を判断)。
予報	噴火予報	火口内等	1 活火山であることに留意		火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	特になし(状況に応じて火口内への立入規制等)。

注1: 住民等の主な行動と登山者・入山者への対応には、代表的なものを記載。  
注2: 避難・避難準備や入山規制の対象地域は、火山ごとに火山防災協議会での共同検討を通じて地域防災計画等に定められています。ただし、火山活動の状況によっては、具体的な対象地域はあらかじめ定められた地域とは異なることがあります。  
注3: 表で記載している「火口」は、噴火が想定されている火口あるいは火口が出現しうる領域(想定火口域)を意味します。  
注4: 火山別の噴火警戒レベルは、「大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流等が居住地域まで到達するような大きな噴火が切迫または発生」(噴火警戒レベル5の場合)等、レベルごとの想定される現象の例を示しています。

九重山 噴火警戒レベルと必要な防災対応



この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

噴火警戒レベルに応じて下記のような防災対応が必要になります。

レベル5 避難	危険な居住地域からの避難。
レベル4 避難準備	警戒が必要な居住地域での避難準備。要配慮者は避難等。
レベル3 入山規制	火口から居住地域近くまで立入禁止。(規制範囲は想定火口域中心から概ね1.5km、火山活動の状況により概ね2km)(規制範囲2km) ●の範囲内 ・法華院温泉、くじゅうヒュッテは避難 ・やまなみハイウェイは長者原から牧ノ戸間は通行止め ・主な登山口に通じない登山道を示した看板の設置 (規制範囲1.5km) ●の範囲内 ・法華院温泉、くじゅうヒュッテは注意喚起 ・主な登山口に通じない登山道を示した看板の設置
レベル2 火口周辺規制	想定火口域中心から概ね1km以内の立入禁止。●の範囲内 ・主な登山口に通じない登山道を示した看板の設置
レベル1 活火山であることに留意	想定火口域内の立入規制等。●(500m)の範囲内

●:一般道 ●:登山道 ●:想定火口域(硫黄山) ●:居住地域 ●:特定地域

- 特定地域は居住地域よりも想定火口域に近く、上図中の「凡例のマークで示す」温泉等の施設が含まれる地域です。居住地域よりも早い段階で避難等の対応が必要となります。
- この図は、大分県による九重山防災マップをもとに、九重山火山防災協議会及び地元自治体と調整して作成しています。
- 各レベルにおける具体的な規制範囲等については、地域防災計画等で定められていますので、詳細については町にお問い合わせください。

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に家事を知らせ、すみやかに119通報をしましょう。  
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

## 1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。  
声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。  
当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。



## 2 早く消火する

- 消火ができる限度は、出火から3分以内。
- 水や消火器だけで消そうと思わず、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。



### 火元別初期消火のコツ

#### 油なべ

あわてて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を行う。

#### 衣類

着衣に火がついたら転げまわって消す方法もある。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

#### 電気製品

いきなり水をかけると感電の危険がある。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を行う。

#### ストーブ

消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器を使用する。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

#### 風呂場

風呂場からの出火に気づいても、いきなり戸を開けるのは禁物。空気が室内に供給されて火勢が強まる危険がある。ガスの元栓を締め、徐々に戸を開けて一気に消火を行う。

#### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなど、立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を行う。



## 3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

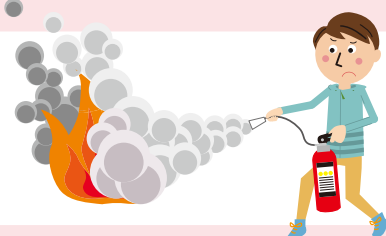
### 消火器の使い方

#### 粉末・強化液消火器の場合

- 1 安全ピンに指をかけ上に引き抜く。
- 2 ホースをはずして火元に向ける。
- 3 レバーを強く握って噴射する。

#### 消火器のかまえ方

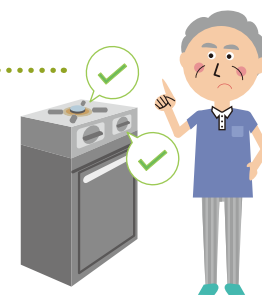
- 風上に回り風上から消す。炎にはまともに正対しないように。
- やや腰を落して姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされず、燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



みんなで助け合い、落ち着いて早めに避難できるようにしましょう!

### 戸締り・ガス・火元・電気のチェック

避難の際は、火の始末と戸締りを行いましょう。避難時の持ち出し品は、必要最小限になるようまとめましょう。



### メモを残す!

外出中の家族へは、避難先を書いた伝言メモを目立つところに残しておきましょう。

### 速やかに避難を!

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。災害に巻き込まれる可能性があるので、忘れ物などを取りに、家に帰らないようにしましょう。



## 洪水・土砂災害での避難の仕方

### 歩ける深さに気をつける!

歩ける深さは平均約50cm。水がひざまで来たら助けを呼び、高い所で救助を待ちましょう!



### 履き物に注意!

裸足、長靴は禁物です。ひもでしめられる運動靴が良いでしょう。



### ロープでつながる!

はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう! また、水面下には危険が潜んでいます。長い棒を杖がわりに安全確認をしてください。



### もしも、土石流に遭遇したら

#### 逃げ方に注意しましょう!

土石流は流れるスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して、直角に逃げる等、逃げ方に注意しましょう。



## 援助が必要な人がいたら

### 高齢者や病気の方

お年寄りや子ども、病気の方などは、早めの避難が必要です。みなさんと協力して避難しましょう。



### 耳の不自由な方

話す時はまっすぐ顔を向け、口を大きくはっきり動かしましょう。手話、筆談、身ぶりなどの方法で正確に情報を伝えましょう。



### 目の不自由な方

はっきり、ゆっくり大きな声で話しかけましょう。誘導する場合は、ひじの辺りを軽く持ってもらい、ゆっくりした速度で半歩前を歩きましょう。



### 体の不自由な方

車いすの方の場合、階段では必ず3人以上で!昇る時は、前向きに、降りる時は後ろ向きにします。



# 防災対策&チェック

突然の災害に備えて、今、自分たちでできることを見回してみましょう。  
日頃から対策ができているか、チェック☑しましょう。

## 家の中の安全対策

☐ Check Point

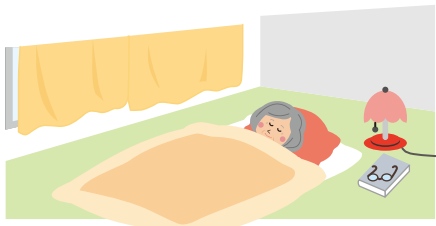
### 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換える。

☐ Check Point

### 寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない

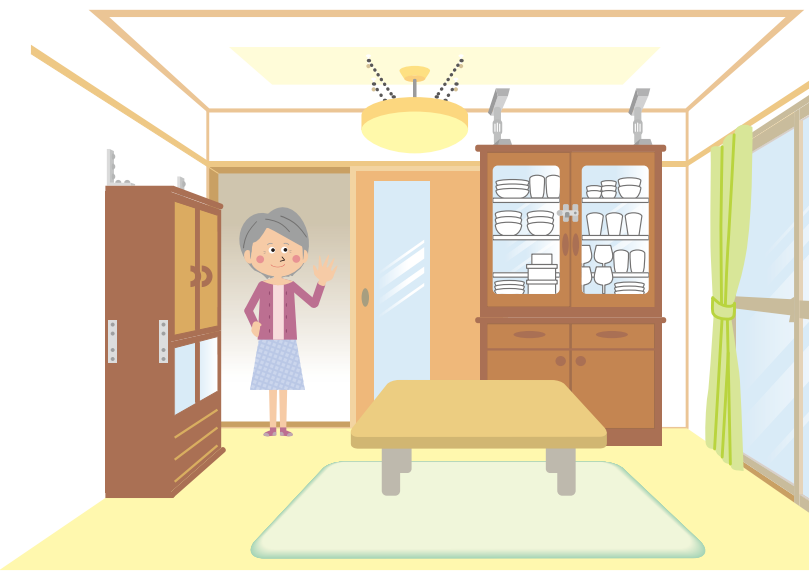
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは家具の下敷きになる可能性がある。  
家具の近くでは寝ない。



☐ Check Point

### 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



☐ Check Point

### 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

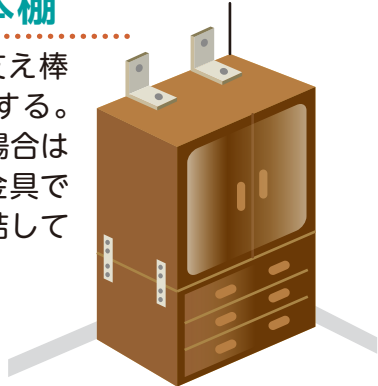
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

## 家具の転倒、落下を防ぐポイント

☐ Check Point

### タンス・本棚

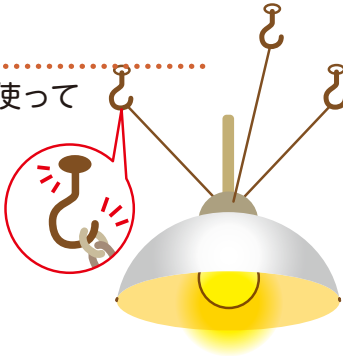
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



☐ Check Point

### 照明

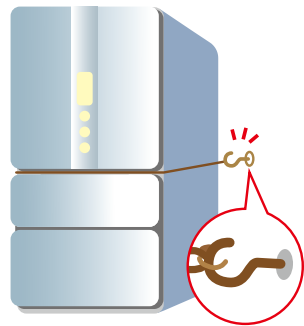
チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。



☐ Check Point

### 冷蔵庫

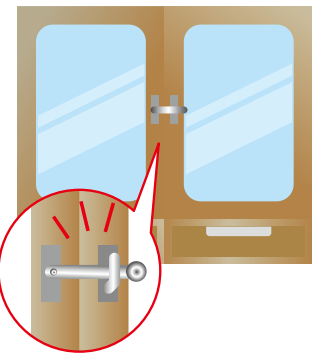
扉と扉の間に針金などを巻いて、金具で壁に固定する。



☐ Check Point

### 食器棚

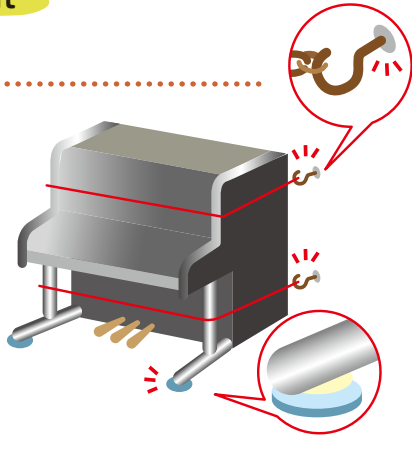
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



☐ Check Point

### ピアノ

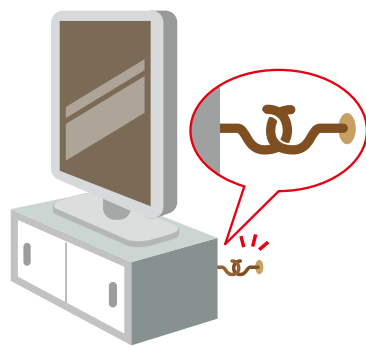
本体にナイロンテープなどを巻きつけ、取りつけた金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



☐ Check Point

### テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上はさける)。



## 家の周囲の安全対策

☐ Check Point

### 屋根

不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

☐ Check Point

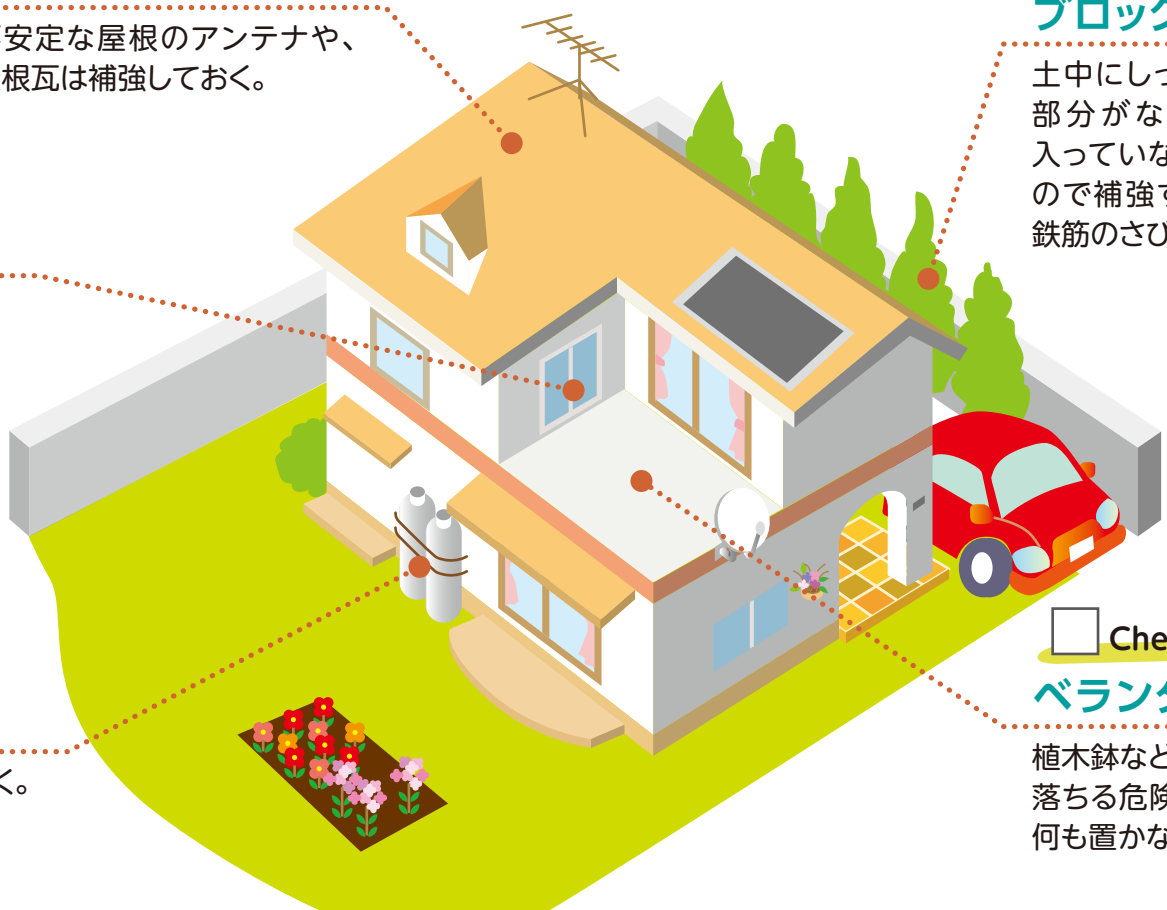
### 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。

☐ Check Point

### プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。



☐ Check Point

### ブロック塀・門柱

土中にしっかりとした基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

☐ Check Point

### ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

このチェック図は、一般的なものを示しています。それぞれのご家庭の状況に応じて危険な箇所がないかご確認ください。下記のチェック表に気づいた点などを記入して活用してください。



チェック欄	気づいた点	備考
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		
<input type="checkbox"/>		

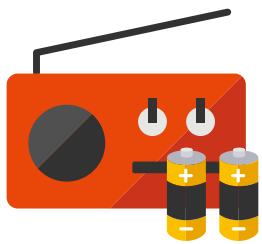
# 非常時持ち出し品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。  
日頃から準備できているか、チェック☑しましょう。

## 非常時持ち出し品(例)

それぞれのご家庭の状況に応じて必要なものを記入するなどして、活用してください。

### 携帯ラジオ



<input type="checkbox"/>	ラジオ
<input type="checkbox"/>	電池(多めに用意)
<input type="checkbox"/>	携帯電話・充電器
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

### 救急医療品



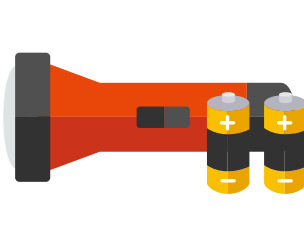
<input type="checkbox"/>	常備薬	<input type="checkbox"/>	絆創膏
<input type="checkbox"/>	傷薬	<input type="checkbox"/>	包帯
<input type="checkbox"/>	風邪薬	<input type="checkbox"/>	胃腸薬
<input type="checkbox"/>	鎮痛剤	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

### 貴重品



<input type="checkbox"/>	現金	<input type="checkbox"/>	預金通帳
<input type="checkbox"/>	印鑑	<input type="checkbox"/>	免許証(写し)
<input type="checkbox"/>	健康保険証(写し)	<input type="checkbox"/>	権利証書
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

### 懐中電灯



<input type="checkbox"/>	懐中電灯 (できれば一人にひとつ)
<input type="checkbox"/>	電池(多めに用意)
<input type="checkbox"/>	ろうそく
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

### 非常食品等

火を通さずに食べられるもの、食器など



<input type="checkbox"/>	非常用食品	<input type="checkbox"/>	紙皿	<input type="checkbox"/>	ミネラルウォーター
<input type="checkbox"/>	缶切り	<input type="checkbox"/>	水筒	<input type="checkbox"/>	栓抜き
<input type="checkbox"/>	割りばし	<input type="checkbox"/>	缶詰	<input type="checkbox"/>	紙コップ
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

### その他



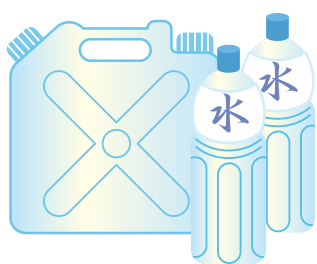
<input type="checkbox"/>	衣類 (下着・上着など)	<input type="checkbox"/>	タオル
<input type="checkbox"/>	生理用品	<input type="checkbox"/>	粉ミルク
<input type="checkbox"/>	ウェットティッシュ	<input type="checkbox"/>	紙おむつ
<input type="checkbox"/>	ティッシュペーパー	<input type="checkbox"/>	離乳食
<input type="checkbox"/>	ヘルメット	<input type="checkbox"/>	カップ
<input type="checkbox"/>	ラップフィルム (止血や食器にかぶせて使う)	<input type="checkbox"/>	ライター・マッチ
<input type="checkbox"/>	防災マップ(本書)	<input type="checkbox"/>	手袋
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

非常時持ち出し品は、使用するときには支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限がせまったものから順に入れ替えておきましょう。

## 非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低 3 日)を自活するための備蓄品

### 飲料水



<input type="checkbox"/>	飲料水としてペットボトルや 缶入りのミネラルウォーター (1人1日3リットルを目安に)
<input type="checkbox"/>	貯水した防災タンクなど
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

### 非常食品



<input type="checkbox"/>	お米(缶詰・レトルト・ アルファ米も便利)
<input type="checkbox"/>	缶詰・レトルト食品
<input type="checkbox"/>	梅干し・調味料など
<input type="checkbox"/>	ドライフーズ・ チョコレート・飴 (菓子類など)
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

### 燃料



<input type="checkbox"/>	卓上コンロ
<input type="checkbox"/>	ガスボンベ
<input type="checkbox"/>	固形燃料
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

### その他



<input type="checkbox"/>	生活用水 (風呂・洗濯機などに貯水)
<input type="checkbox"/>	毛布・寝袋・洗面用具・ ドライシャンプーなど
<input type="checkbox"/>	調理器具(なべ・やかんなど)
<input type="checkbox"/>	バケツ・各種アウトドア用品など
<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	

定期  
点検!

非常時持ち出し品は  
定期的に点検を!



## 避難生活が長引くときに便利なもの

<input type="checkbox"/>	携帯トイレ	<input type="checkbox"/>	裁縫セット	<input type="checkbox"/>	ライター・マッチ	<input type="checkbox"/>	筆記用具(マジックなど)
<input type="checkbox"/>	使い捨てカイロ	<input type="checkbox"/>	布ガムテープ	<input type="checkbox"/>	大判ハンカチ	<input type="checkbox"/>	万能ナイフ
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

など

## 熊本・大分地震で役に立ったもの

<input type="checkbox"/>	ポリ容器	<input type="checkbox"/>	ビニールシート	<input type="checkbox"/>	ラップ	<input type="checkbox"/>	ホイッスル
<input type="checkbox"/>	新聞紙	<input type="checkbox"/>	バール・ハンマー・のこぎり	<input type="checkbox"/>	補助用具としてロープ	<input type="checkbox"/>	予備の眼鏡・補聴器
<input type="checkbox"/>	寝袋	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>	

など

# 特別警報をご存知ですか？

特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする新しい警報です。普段からの備えと、早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報の 発表基準	現象の種類	基 準	
	大 雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
	暴 風	数十年に一度の強度の台風や 同程度の温帯低気圧により	暴風が吹くと予想される場合
	高 潮		高潮になると予想される場合
	波 浪		高波になると予想される場合
	暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
	大 雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	

※表中の“数十年に一度”の現象に相当する降水量等の客観的な指標は気象庁ホームページで公表しています。

現象の種類	基準
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)

## 特別警報が発表されたら

- ◆尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- ◆重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ◆ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

## 命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、自治体や報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



テレビ・ラジオ



インターネット・気象庁ホームページ



防災無線・広報車

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。

※気象庁HPより一部を抜粋して掲載

「特別警報」については、大分地方気象台HPに詳細が掲載されていますので、ご確認ください。

### 大分地方気象台

〒870-0023 大分市長浜町3丁目1番38号 電話: 097-532-0644  
【大分地方気象台ホームページ】 <http://www.jma-net.go.jp/oita/>

## 災害用伝言ダイヤルの使い方

### 災害用伝言ダイヤルとは？

NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否などの情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

※伝言蓄積数や保存期間は災害の状況により異なります。

伝言の録音	171-1-●●●●-●●-●●●●	(自宅の電話番号、または連絡を取りたい方の電話番号)	伝言保存期間	提供終了まで
伝言の再生	171-2-●●●●-●●-●●●●		伝言蓄積数	1電話番号あたり1~20伝言まで
伝言内容(時間)	1伝言あたり 30秒以内		利用可能電話	加入電話、ISDN、ひかり電話、携帯電話(一部除く)等

# 県民安心・安全メール

## 情報配信メールサービスのご案内

みなさんがどこでも迅速に緊急情報や業務連絡情報を受け取れるよう、お持ちの携帯電話やパソコンへ様々な防災情報をメールで配信するサービスです。登録に関しての費用は無料です。ぜひご活用ください。

※メール受信にかかるデータ通信料は利用者の負担となります。

## 配信情報例(選択できます)

### 防災情報等

気象警報や土砂災害警戒情報・地震避難に関する防災情報など

### 行政情報連絡情報

各種行政からの案内など

## 登録方法(例)

※メール・サイトの指示に従ってご登録ください。

### 登録サイト

<http://www.bousai-oita.jp/>

1

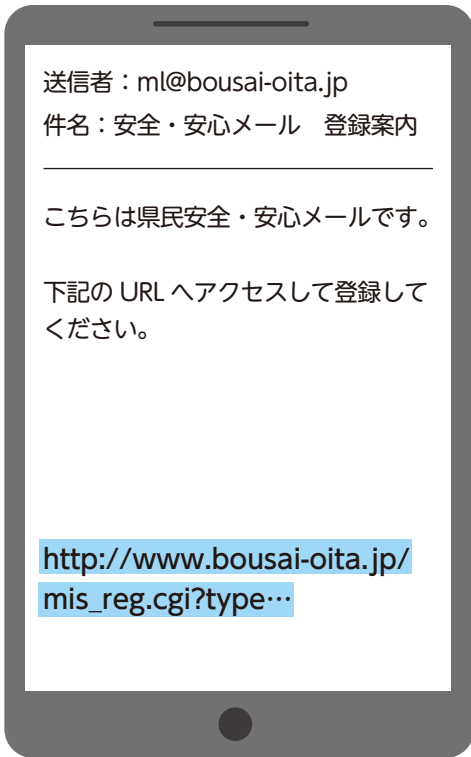
[e@bousai-oita.jp](mailto:e@bousai-oita.jp) へ空メールを送信する。(タイトル、本文は不要) または、QRコードをバーコードリーダーで読み取ってください。



「QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。」

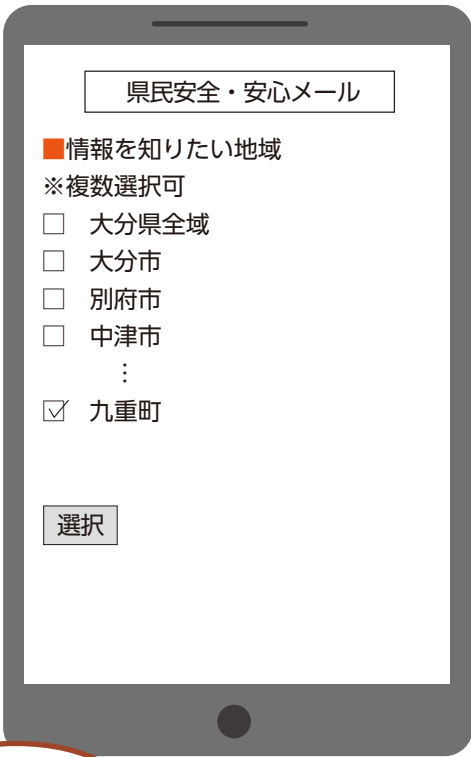
2

登録用メールが届いたら、指定のアドレスにアクセスする。



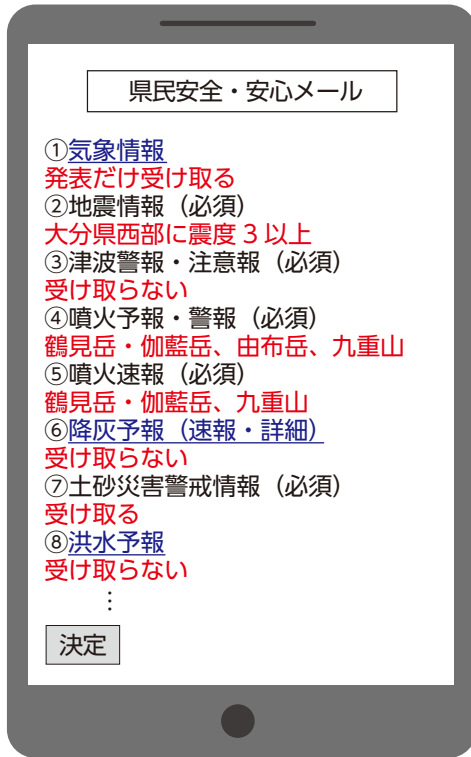
3

県内18市町村が表示されますので、情報を知りたい地域をチェックし、「選択」を押します。



4

受信したい情報を個別に設定してください。



5

全ての設定が完了したら登録完了です!

欲しい情報を登録するだけでカンタン!



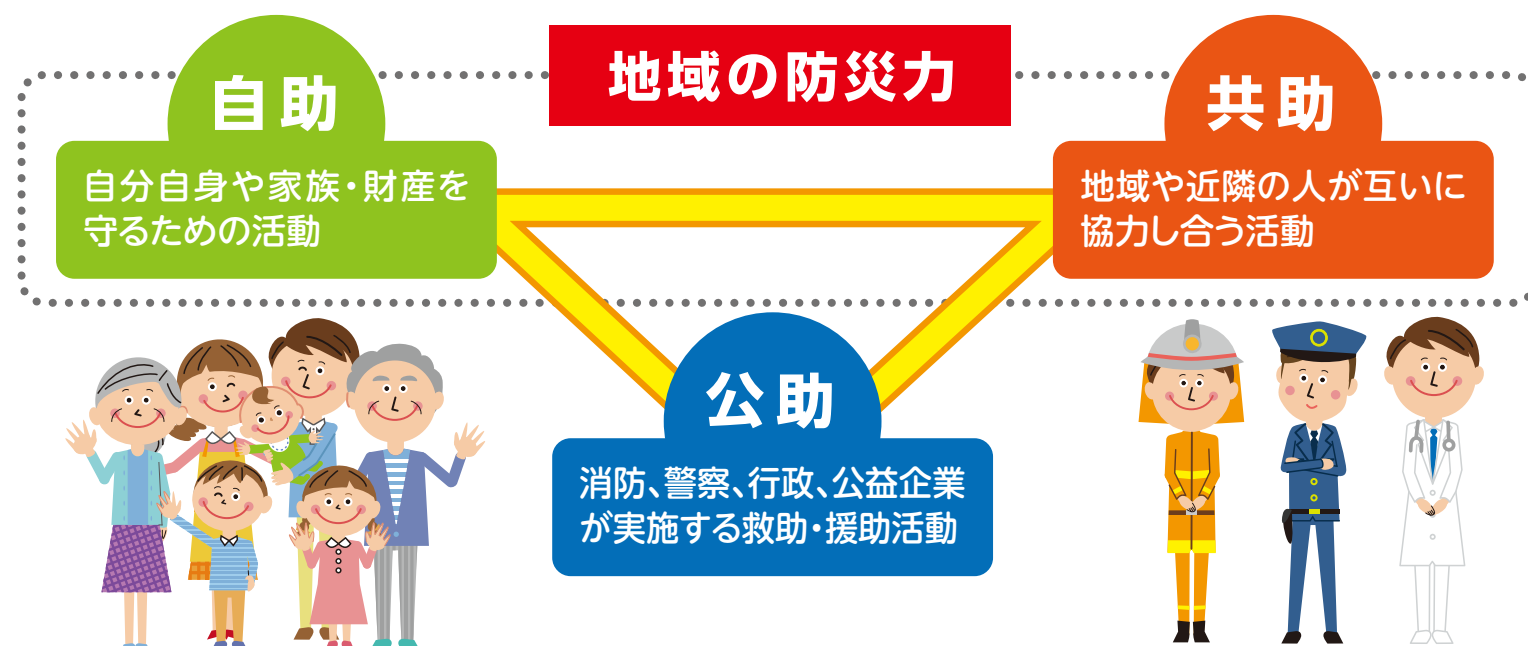
## お問い合わせ先

大分県 生活環境部 防災危機管理課  
TEL 097-506-3155

## 地域の防災力

災害発生時には、自助・共助・公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。  
ひとたび大規模な災害が発生したときには、公的機関が行う活動（公助）は交通網の寸断や同時多発火災などにより十分対応できない可能性があるため、個人の力で災害に備える（自助）とともに、地域での助け合い（共助）による地域の防災力が重要となります。

災害に強い地域づくりを目指して、災害時の被害を軽減するため、「自主防災組織」活動を通じて、共助の強化、地域の防災力の強化に向けた取組を始めてみませんか？



### 自主防災組織とは？

- 災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」と言います。
- 平常時には防災訓練や広報活動、災害時には初期消火、救出・救護、集団避難、避難所への給食給水などの活動を行います。



### なぜ、自主防災組織が必要なの？

- 大規模な災害が発生した場合、消防署などの防災機関だけでは、十分な対応ができない可能性があります。
- このような時、地域の皆さんと一緒に協力し、災害や避難に関する情報の伝達、避難誘導、安否確認、救出・救護活動に取り組むことで被害の軽減を図る事ができます。また、活動を迅速に進めるためには「お互いに顔の見える関係」の中で、事前に地域内で役割分担を決めておくことが有効です。
- より効率よく、さまざまな活動をするためにも事前の準備（＝体制づくり）が重要です。

## 災害危険の把握

自主防災組織の活動の一環として、地域の災害危険箇所を把握し、防災に関する認識を高めることも大切です。主に次のような視点から、地域の危険箇所について把握するとよいでしょう。

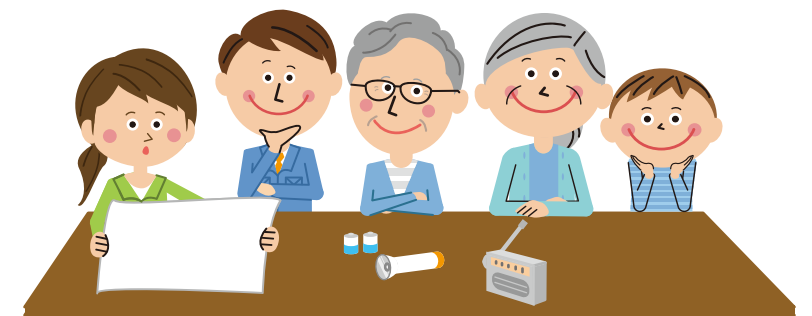
### 地域の危険箇所把握の視点

- 本書を活用し、災害に応じた危険箇所を把握しておきましょう。
- 地域内の危険物集積地域、延焼拡大危険地域、土砂災害危険区域、ブロック塀の安全度等の実態を把握しておきましょう。
- 地域の実態に即した消防活動、災害時要援護者に配慮した避難誘導等の対応策について十分理解しておきましょう。
- 地域内の消火栓や防火貯水槽等の消防水利の所在を確認するとともに、消火用の水利として古井戸、小川等の活用も検討しておきましょう。
- 地域の災害履歴や、災害に関する伝承等を知ることにより、予防・応急活動に効果的に活用しましょう。

突然起こりうる災害を予測するのは難しいものです。いざというときの家族の行動、避難所や避難方法、連絡方法などを普段から家族でよく話し合っておきましょう。その際、「非常時持ち出し品の準備&チェック」の頁を活用して、持ち出し品の点検も行っておきましょう。

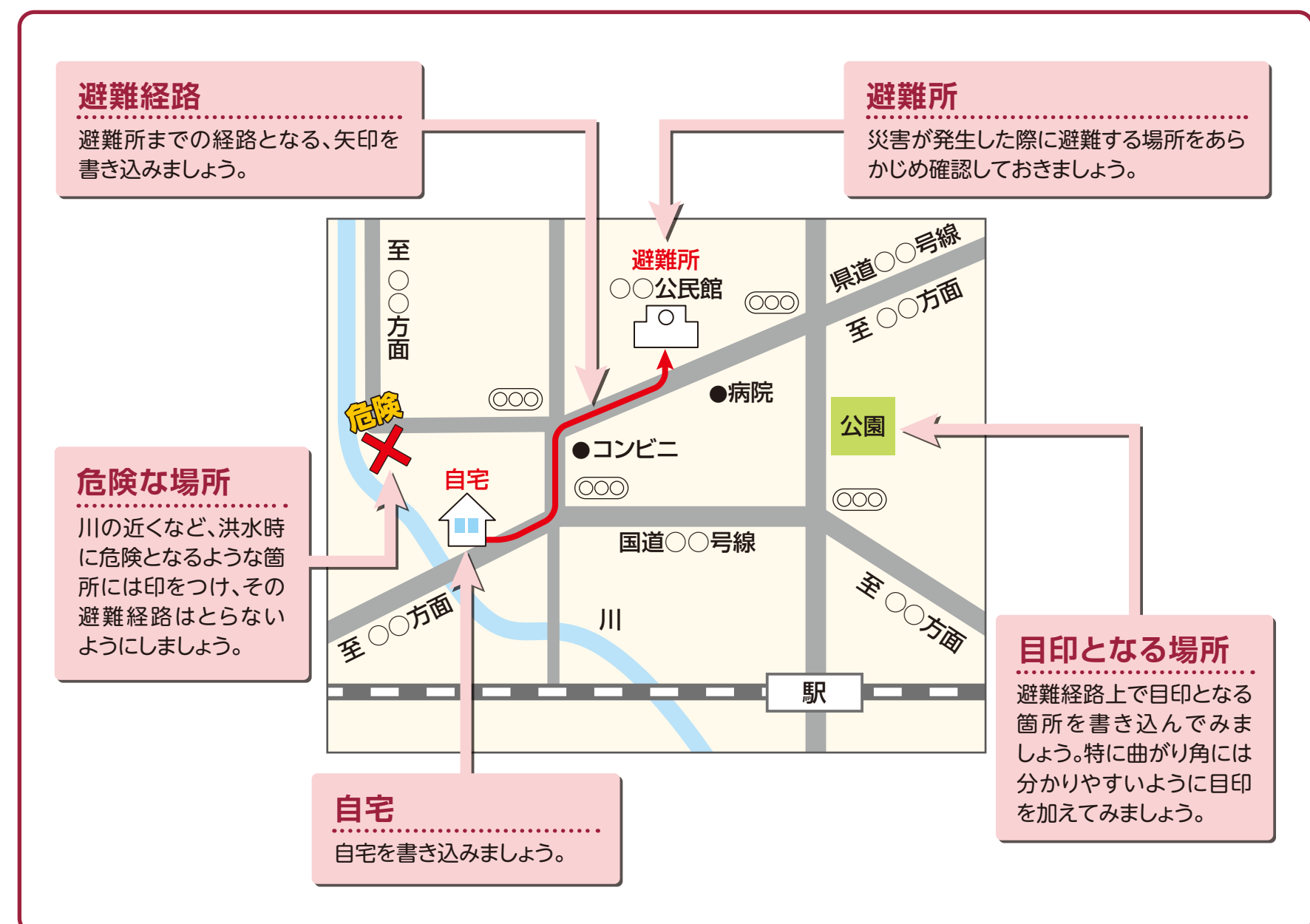
## 家族で話し合っておきたい項目

- 家の中ではどこが一番安全か
- 救急医薬品や消火器などを準備しているか
- 乳幼児や高齢者の面倒は誰がみるのか
- 安全な避難経路、避難所はどこにあるのか
- 避難するとき、誰が何をもち出すのか、非常時持ち出し袋はどこに置くのか
- 家族間の連絡方法と最終的に会合する場所はどこにするのか
- 昼の場合と夜の場合の役割分担は、はっきり決まっているか
- 地域の防災活動（自主防災組織の訓練など）に参加しているか

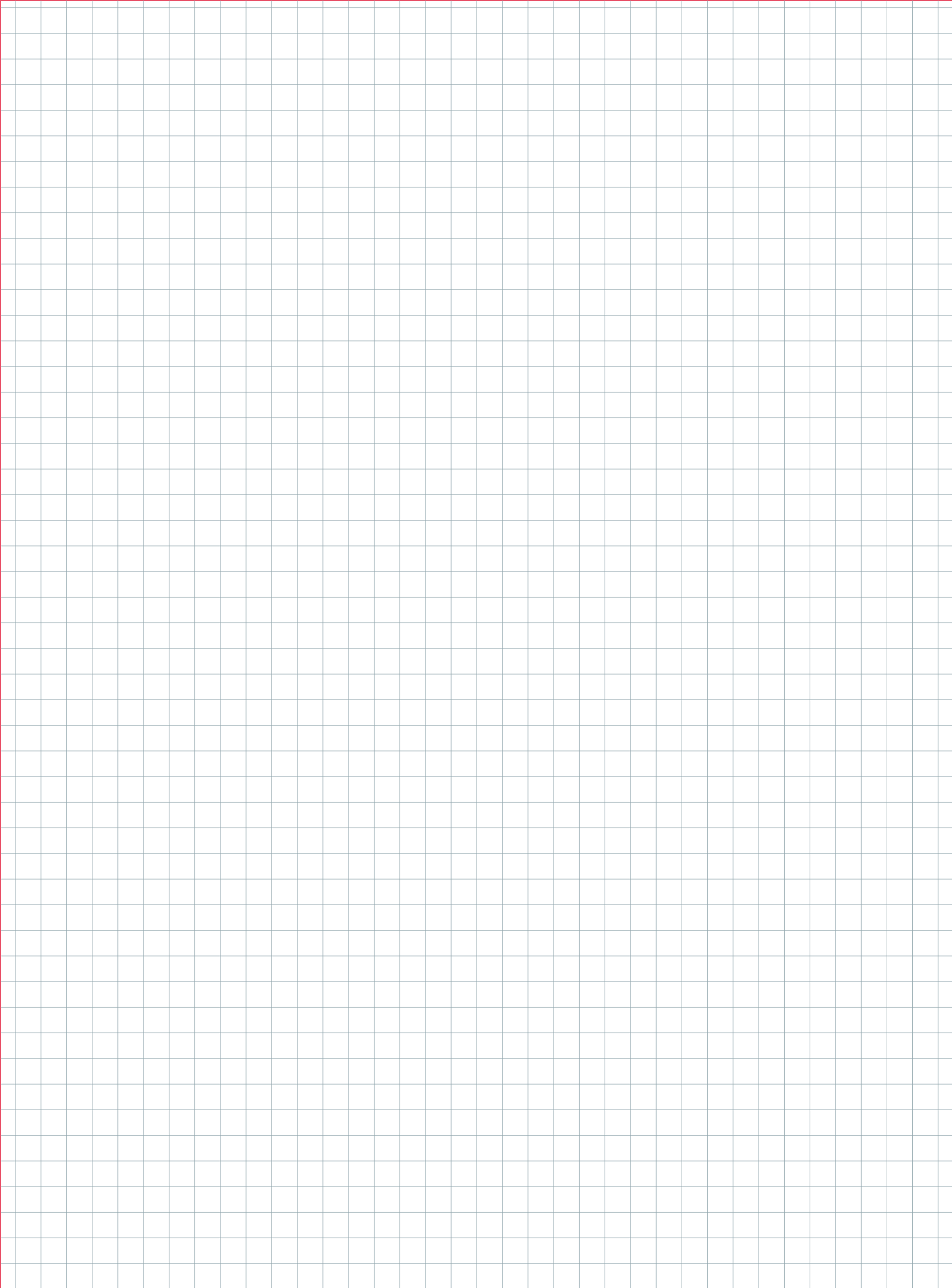


## 家庭のオリジナルマップの作成

家族で話し合った内容なども踏まえ、自宅から避難所までの経路や危ない場所などを記載したオリジナルマップを作成し、家庭内で共有しておきましょう。



# 家庭のオリジナルマップを作ろう！



# 防災に関する知識

## 緊急時の連絡先

消防・救急は **119番** 警察は **110番**

	名称	TEL
気象関係	大分地方気象台	097-532-0644
行政関係	役場 (危機管理情報推進課)	0973-76-2111
警察・消防	玖珠消防署	0973-72-2141
	玖珠警察署	0973-72-2131
土木事務所	玖珠土木事務所	0973-72-1152

	名称	TEL
ライフ ライン	電話の故障に関することは NTT西日本	0120-444-113
	電気のことは 九電コールセンター	0120-986-502
	上水道のことは 役場建設課	0973-76-3811
	CATVのことは 役場危機管理情報推進課	0973-76-2111

もしもの時のために**連絡先**を記入しましょう。

家族・親戚

名前	☎	名前	☎
名前	☎	名前	☎
名前	☎	名前	☎

かかりつけの病院

### 日常の 心得

災害は、いつ発生するかわかりません。日頃からの備えが大切です。日頃から気象情報について、テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどを通じて把握するよう努めましょう。

## 連絡方法の確認

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。  
なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

社団法人電気通信事業者協会 《災害時の電話の利用方法》	<a href="https://www.tca.or.jp/information/disaster.html">https://www.tca.or.jp/information/disaster.html</a>
NTT西日本 《災害用伝言ダイヤル171》	<a href="https://www.ntt-west.co.jp/dengon/">https://www.ntt-west.co.jp/dengon/</a>
NTTドコモ 《iモード災害用伝言板サービス》	<a href="https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html">https://www.nttdocomo.co.jp/info/disaster/disaster_board/index.html</a>
au《災害用伝言板サービス》	<a href="https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/">https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/</a>
SoftBank《災害用伝言板》	<a href="https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/">https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/</a>

## 緊急速報メール

**「緊急速報メール」により、緊急情報を配信**します。

町では、災害時の避難勧告などの緊急情報をより多くの人にお伝えするため、緊急時に町内にいる人の携帯電話へ「緊急速報メール」の配信を行います。

- 「緊急速報メール」とは、避難勧告などの緊急情報を町内にいる人の携帯電話（NTTドコモ、au、ソフトバンク）へ一斉にメールを配信するものです。  
※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合がありますので、詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。
- 配信する情報は、避難勧告や避難指示（緊急）など、緊急かつ重要な情報です。
- 携帯電話を利用する人の費用負担や事前のメールアドレス登録は必要ありません。

